

千葉県感染症発生動向調査情報

2015年 第12週 (3/16-3/22) の発生は？

1 定点報告対象疾患(五類感染症)

報告のあった定点数		12週	11週	10週	9週
小児科		18	18	18	18
眼科		4	5	5	5
インフルエンザ		28	28	28	28
基幹定点		1	1	1	1

上段:患者数
下段:定点当たりの患者数
「定点当たりの患者数」とは
報告患者数/報告定点数。

定点	感染症名	千葉県					注意報
		千葉市		千葉県		3/9-3/15	
		3/16-3/22	3/9-3/15	3/2-3/8	2/23-3/1		
		12週	11週	10週	9週	11週	
小児科	RSウイルス感染症	2	4	4	2	36	
	咽頭結膜熱	3	12	7	4	70	
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	47	64	68	46	484	
	感染性胃腸炎	117	130	126	126	884	
	水痘	5	6	8	2	81	
	手足口病	2	0	0	1	12	
	伝染性紅斑	11	9	7	6	92	○
	突発性発しん	11	7	8	7	35	
	百日咳	0	0	0	0	0	
	ヘルパンギーナ	0	0	0	0	4	
	流行性耳下腺炎	6	6	6	4	47	
インフル	インフルエンザ(高病原性鳥インフルエンザを除く)	98	95	89	194	1,027	
眼科	急性出血性結膜炎	0	0	0	0	0	
	流行性角結膜炎	1	2	1	2	16	
基幹定点	細菌性髄膜炎(髄膜炎菌性髄膜炎を除く)	0	0	0	0	0	
	無菌性髄膜炎	0	0	0	0	0	
	マイコプラズマ肺炎	0	0	0	0	1	
	クラミジア肺炎(オウム病を除く)	1	0	0	1	0	
	感染性胃腸炎(ロタウイルスに限る)	0	0	1	0	8	

★★:流行中 ★:やや流行中 ◎:増加 ○:やや増加 →:変化なし ↓:やや減少 ↓↓:減少

2 全数報告対象疾患(8件)

病名	性	年齢層	診断(検査)方法	病名	性	年齢層	診断(検査)方法
結核	男性	70歳代	IGRA検査等	腸管出血性大腸菌感染症	男性	20歳代	病原体の検出及び ヘリ毒素の確認
結核	男性	90歳代	病原体等の検出等	腸チフス	男性	50歳代	病原体の検出
結核	女性	30歳代	画像診断	A型肝炎	女性	60歳代	血清IgM抗体の検出
結核	女性	70歳代	IGRA検査等	侵襲性肺炎球菌感染症	男性	10歳未満	病原体の検出

・結核4件(43)、腸管出血性大腸菌感染症1件(2)、腸チフス1件(1)、A型肝炎1件(2)、
侵襲性肺炎球菌感染症1件(11)の報告があった。

※ ()内は2015年の累積件数。但し、累積件数は速報値であり、データが随時訂正されるため変化します。

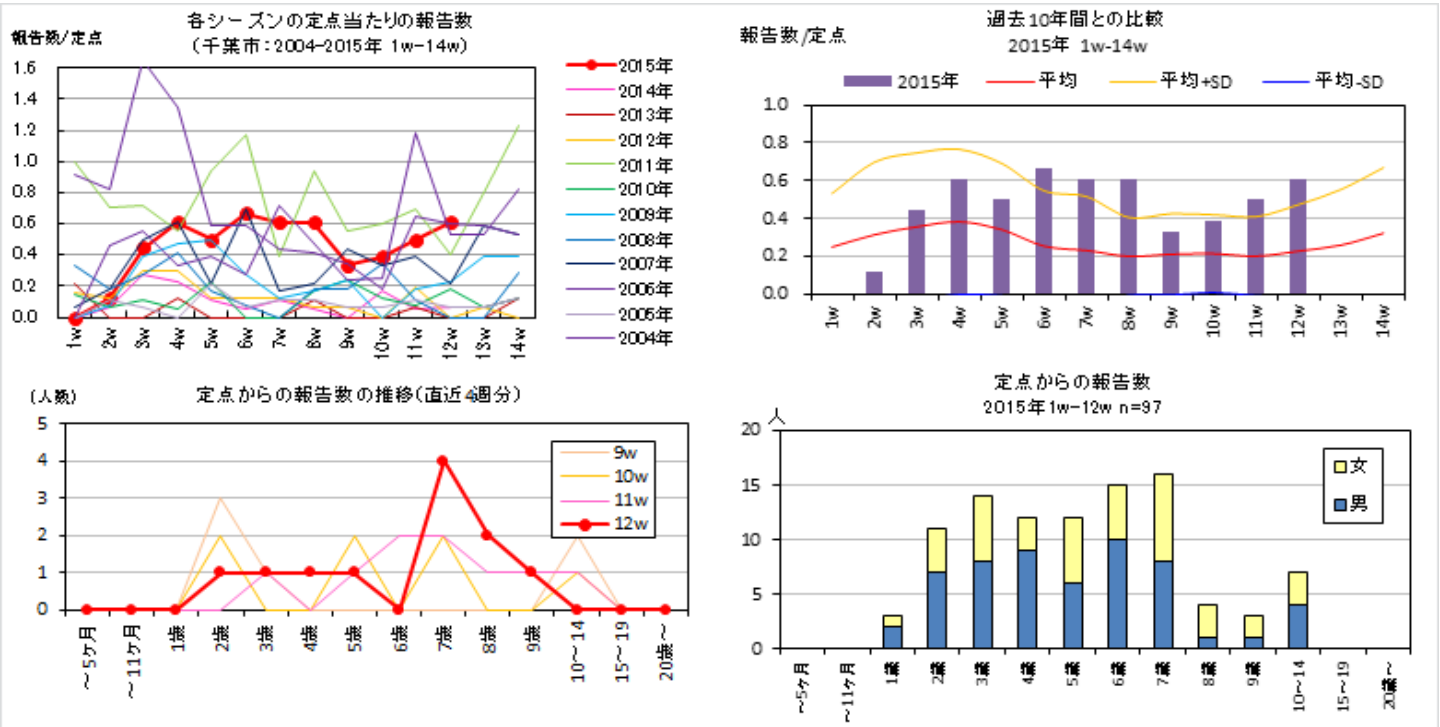
定点当たり報告数 第12週のコメント

＜伝染性紅斑＞前週より増加し0.61となった。過去10年の同時期と比べると最多。

トピック

＜伝染性紅斑＞

全国レベルの2015年第11週現在は、過去8年間の同時期と比べると多めとなっています。都道府県別では、埼玉県、石川県、宮城県の順に多く報告されています。千葉県は全国レベルより多くなっています。千葉市の2015年第12週は、前週より増加し0.61となり、過去10年の同時期と比べると最多となっています。区別の発生状況では、美浜区(1.5/定点)で最多で、同区の7歳で最も多く発生が報告されました。2015年第1週から第12週現在の累積報告数(n=97)によると、性別では男性が57.7%(56名)、女性が42.3%(41名)で、年齢階級別では7歳(16.5%:16名)、6歳(15.5%:15名)、3歳(14.4%:14名)の順に多くなっています。



＜梅毒＞

全国レベルの2014年は、過去8年と比べて1.4倍～2.5倍の1220件で最多となりました。2015年第11週現在は、過去9年間の同時期と比べるとおよそ1.3～4倍で最多となっています。都道府県別では、東京都、大阪府、神奈川県 の順に多く報告されています。千葉県は8名で全国7位となっています。千葉市では2015年第12週現在、4件の届出があります。

千葉市では、2012年から増加し2014年は17名で過去10年と比べて最多となりました。2014年の全届出において、性別は男性が76.5%(13名)、女性が23.5%(4名)で、年齢階級別は20歳代が2名(11.8%)、30歳代が4名(23.5%)、40歳代が3名(17.6%)、50歳代が5名(29.4%)、70歳代が2名(11.8%)、80歳代が1名(5.9%)で、感染経路は異性間性的接触が7名(41.2%)、同性間性的接触が4名(23.5%)、不明が6名(35.3%)で、病型は早期顕症梅毒(Ⅱ期)が6名(35.3%)、晩期顕症梅毒が4名(23.5%)、無症状が7名(41.2%)でした。2015年は、全員男性で、年齢階級別は、20歳代と30歳代が各1名、50歳代が2名で、感染経路は同性間性的接触が3名、その他が1名、病型は早期顕症梅毒(Ⅰ期)が3名、早期顕症梅毒(Ⅱ期)が1名となっています。

